2014　愛知県立大学スクールソーシャルワーク教員研修

ニューズレター　No.2　2014年11月3日

School Social Work Teacher Training Program Newsletter　発行：SSW 教員研修事業事務局
（TEL & FAX: 0561-76-8724　tsuboi@ews.aichi-pu.ac.jp）

スクールソーシャルワーク教員研修参加者の皆さん　こんにちは。秋も深まるなか、三連休をいかがお過ごしでしょうか。

さて、教員研修初回から一ヵ月がたち、今週末には第２回の研修会です。そのプログラムをご案内させていただくとともに、第１回の研修会で実施したアンケート回答の内容をご紹介し、要望等についても応答させていただきました。さらに、事前配布資料、１月合宿、事業運営委員の研修傍聴についてもご案内しておりますので、ご確認ください。

■　第２回　１１月８日のプログラムのご案内

12:30～　受付
1:00～1:05　事務連絡
1:05～2:10　ソーシャルワーク入門講義・演習Ⅱ【宇都宮】
（５分　休憩）
2:15～3:20　ソーシャルワーク入門講義・演習Ⅲ【吉川】
（休憩 15 分）
3:35～4:15　教育現場の課題と本研修への期待（その２）
【６名：氏名略】
4:15～4:45　教育実践とスクールソーシャルワーク（その１）【TA：酒井多輝子・杉原里子】
4:45～5:00　参加者アンケート（感想・コメント）記入

■　事前配布資料（参考文献と予習課題）について

初回（9/27）にお渡しした「事前配布資料」は、以下の通りです。宇都宮講師は、講義・演習内容のご案内と資料４点（合計 27 頁）です。ご一読のうえ、ご参加ください。また、吉川講師は、「連携」をテーマにした講義・演習であるとしたご案内と資料１点（合計５頁）です。事前作業課題として「わがまち（自治体）において、スクールソーシャルワークで活用できそうな社会資源」をあげ、その役割や機能について調べてくることが求められています。ただし、参加者の皆様の勤務状況や体調などにより、作業課題をこなせない場合もあることは十分承知しております。とにかく、11 月もご出席いただき、その後、文献を読んだり、資料収集することを含めて、有効に配布資料を活用してください。

■　１月合宿の出欠確認について

半年に及ぶ長丁場の研修プログラムですので、参加者の親睦交流を深め、小人数討論・ワークショップなどにおいて本音で活発な議論が展開できるように、１月には合宿を予定しております。11 月８日に宿泊施設パンフを含めてご案内させていただきます。出欠については、第３回（12 月６

日）の研修会にご回答ください。なお、諸般の事情で、１日目（１月 10 日）の夕食から翌日（1 月 11 日）の朝食までのプログラムに参加できない場合でも、教育職員免許状取得に必要な研修出席時間には影響しませんので申し添えます。

宿泊施設：猿投温泉 ホテル金泉閣（豊田市加納町馬道通 21　TEL:0565-45-6111）
http://sanageonsen.jp

参加費：1 泊 2 食 13,608 円+飲み物代＝約 15,000 円（懇親２次会は、自販機にて各自持込）
夕食会（温泉付）のみ参加の場合：5,832 円+飲代＝約 7,200 円

【1 月合宿プログラムの概要】

＜1 月 10 日（土）＞

午後 1 時～5 時　研修

午後５時 15 分　大学正門よりホテルの送迎バスにより移動。マイカーは大学に翌日まで駐車可能。
マイカーによる移動も可（ホテル無料駐車場有）。

5 時 30 分～7 時　各自部屋へ移動ののち、温泉タイム

7 時～8 時 30 分　夕食会（懇親会）

9 時～　懇親二次会・温泉タイム（和室にテーブルと腰掛イスを宿泊人数分用意します）

＜1 月 11 日（日）＞

7 時～8 時 30 分　朝食・温泉タイム

8 時 30 分　ホテルより大学まで送迎バスで移動

9 時～午後 1 時　研修

■ 連携機関の事業運営委員の研修傍聴について

県総合教育センターはじめ近隣４市（尾張旭市、瀬戸市、日進市、長久手市）の教育委員会は、本研修事業の連携機関として、９月までに４回の教材作成検討会などで協力いただいております。これらの連携機関では、スクールソーシャルワークに関する教職員研修を独自に企画実施する計画もあり、研修会を傍聴したいとの要請を受けております。そこで、参加者同様に守秘義務（参加者の発言内容を口外しない）をお守りいただくとともに、自由に発言できる研修環境づくりに特段のご配慮をお願いして、事業運営委員の皆様には、ご希望であれば傍聴していただくことといたしましたので、よろしくお願いします。

■ 初日（9/27）のアンケートのまとめ－ご協力ありがとうございました

アンケートの第一の質問項目「本日の研修で、理解が深められたり、有意義だと感じられたのはどんな点ですか。」について寄せられたご意見を紹介します。

（１）参加者の発表について

①参加者がそれぞれの立場で、子どもや保護者・家庭を支援したいという強い思いがわかり、自分自身の励みにもなりました。

②管理職の先生方も、現場の職員と同じ目線で生徒の支援について考えていらっしゃる点を聴き、現場で悩む立場としてうれしく感じました。

③様々な職種の方が参加されているのは、それだけで意義深いことだと思います。

④相談の実践で（学校等）で、多くの人がスクールソーシャルワークの必要性は感じていることが分かった。また、心理相談（スクールカウンセラー）が担う部分の専門性とは異なる資源の提供の大切さを感じていることも同時に分かった。

⑤参加者それぞれの方が、日々取り組まれている様子を伺うことができて、励みになり、またわが身を

振り返り月曜日からまた頑張れそうです。
⑥様々な立場の方と勉強できることを嬉しく思います。今後が楽しみです。
・先生方の発表を聞いて、それぞれの立場でがんばっていらっしゃることがわかり勇気づけられた。
⑦スクールソーシャルワークの基本について、学び始められた点です。皆さんも、ただ知識として知りたいというのではなく、仕事として必要だから困った経験があるからという真剣なものだったので良かったと思う。
⑧参加者は皆真剣に発表し、上辺だけでない生の声が聞けた。

（２）田川講師の講義・演習について
⑨自分自身がバイステック７原則の大切さを実感でき、改めて信頼関係の築き方に目を向けることができました。“知っていた”ものの、実感、体感、気付きとして学んでおりませんでした。意見を書き出し、表出し合うことで、クライエントの気持ち、人による違いを確認し気付くことができました。教員として生徒と対面するとき、「価値判断」をし、「指導」をしていますが、「相談」となったときの切り替え必要性を感じます。
⑩スクールソーシャルワークという言葉は知っていましたが、具体的な内容は知らないまま参加させていただいております。馬場先生のお話の中で、少し概要が見えてきました。田川先生の話を聞き、普段、相談業務に携わっていることについて整理できた気がしました。
⑪現在は相談を受ける立場にあるのですが、演習やバイステックの７原則の説明を伺って、相談をしにくる方の思い、どんな気持ちで、どんな不安を持って来るのか・・・そういったところまで思いをめぐらせることができていたか・・・と反省しました。今後、相談をしていく時に、保護者や子どもの背景にあるものや心情を思いはかって相談活動をしていきたい。教育の現場に、教員以外のいろいろな職種の方が入って来る時代となった。連携を円滑にするためには、互いの理解が大切であると思う。スクールソーシャルワークについて学ぶことができ、視野の広がりを少し感じることができた。
⑫田川先生の研修Ⅰで、「とても悩んでいるのに、相談できないときの気持ち」「どんな人になら相談したいか」ということを考える活動を通して、相談する側の気持ちが改めて分かりました。相談機関に勤める者として、大切な視点を再確認できました。「ソーシャルワーク」ということについて、ほとんど知らなかったので、馬場先生の説明でスクールソーシャルワークの大枠がわかり、今後の学習の見通しがもてました。
⑬入門講義でのワーク、相談しにくさの実感、相談されやすい人のパターンなど体感できました。参加者の実践の紹介では、自分の日々の仕事と皆さん同じなんだろうと思っていましたが、狭いと言われる現場とその周辺では、様々な仕事、考え、思いがあるものだと思いました。

（３）馬場講師のケース会議について
⑭ケース会議の持ち方等について、すぐに普段の会議で活かせる内容でとても参考になりました。
⑮日ごろ、校内で個々の子どもに対してのケース会議等をよく行いますが、なかなか会がうまく進められなかったり、意見が出ないという現状があります。馬場先生の講義のなかの「ケース会議のポイント③」は、なさけないかな、教員の一番弱い点でもあります。ケース会議のポイントのお話を伺えて、明日からでも実行できそうな要点がわかり大変良かったです。
⑯学校という目線から生徒にかかわった様々な連携の可能性を探るなか、児童相談所と学校の温度差を感じたり、こちらが期待する動きをしていただけなかったりすることが経験上多かったように思うが、馬場先生の講義を聞いて、児童相談所の役割や機能を「こちらができないことをやってくれるのかもしれない所」と勝手にとらえていたことに気づき反省した。ケース会議のもち方も、大変勉強になりました。

（４）全般的感想

⑰本研修のプログラムについて、丁寧な資料を準備いただいたため、理解しやすかった。

⑱演習課題をグループで取り組んだことで、相談をうけるうえで、援助者が大切にしなければならないことが実感できました。ほかの参加者の考えも知ることができ新鮮でした。

⑲学校では、「スクールソーシャルワーカー」が何をする人かまだ知られていない。まずは、スクールソーシャルワーカーの働き方を理解してもらう必要を感じた。そんな中でも、こんな困りごとはスクールソーシャルワーカーがいればうまくいくのではないかと思う事例は、皆さんなんとなく持っていらっしゃるのではと思う。スクールソーシャルワーカーは魔法使いではないので、働けば「すぐ解決」になるわけではない。

⑳教員も勉強が必要だという点は、大切だと思いました。専門家の家庭児童相談員やスクールカウンセラーに繋いだり、病院に行かせればあとはあちらで何とかしてくれると思っている教員が少なからず見うけられます。教員の手におえない事案を他機関にわたすだけでは、うまくいくはずがありません。まだまだ学校にとって、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは特別な存在です。制度が浸透して、常にある存在となり相互に尊重し役割をはたしあうそんな制度を本市でも作れたらと思います。

■ *初日（9/27）のアンケートご回答への対応について*

アンケートのうち、第２・３の質問項目における「ご要望」等については、以下のように対応させていただくこととなりました。

（１）田川講師の「バイステックの７原則」についてのご質問について

バイスティックの７原則のうち「原則２　クライエントの感情表現を大切にする」や、６番目の「クライアントの自己決定を促して尊重する」について、いくつかのご質問がありました。これらについてご回答いただくかたちで、田川講師に補足説明資料を用意いただくことになりました。１１月８日に配布させていただきますのでよろしくお願いします。

（２）馬場講師の「ケース会議のポイント」についてのご質問について

アセスメントの仕方や問題解決型ケース会議の持ち方について、もう少し詳しく聞きたいとする要望も多く寄せられました。この点についても馬場講師に補足説明資料をお願いしているところです。１１月８日に配布予定ですのでよろしくお願いします。

（３）「参加者の発表より講義・演習の時間をもっと」とのご意見について

「参加者のプレゼンテーションの時間を短くしてでも、講義・演習の時間を増やしてほしい」とのご希望も複数の方よりありました。ただ、今回の研修事業は、社会福祉学系と教育学系の教員の協働の最初の試みであり、参加者が学校現場においてどのような問題に直面し、どのように問題を捉え会議を重ね子どもや保護者を支援しておられるのか、講師チームメンバーの認識はまちまちで、現状認識を共有することも課題のひとつでした。そこで、申込時の「私の教育実践と SSW 教員研修への期待」にも触れて、参加者の皆さんに、プレゼンテーションをお願いしております。当初１人 10 分を予定したところを、26 名に参加者を増やしたこともあり、１人６～７分に短縮した経緯もございます。さらに、現在、学校現場に詳しい TA の皆さんが中心になり事例づくりをしておりますが、この作業過程においても、参加者のプレゼンテーションを有効に活用させていただいております。このような次第ですので、引き続き、参加者の皆様には、直面している問題などについて、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、プレゼンテーションへのご理解とご協力をお願いいたします。